

ちばの里山 LIFE 体験交流事業実施報告書 (12)

主催：千葉県

企画運営：NPO 法人ちば里山センター

協力：いちほら里山クラブ

題 名	里山地域の魅力PRセミナー「里山の遊び・楽しさを極めよう」
日 時	平成 28 年 12 月 7 日 (水) 10:20~14:00
会 場	市原市古敷谷 いちほら里山クラブ古敷谷フィールド
出席者	受講生 44 名、講師 2 名、スタッフ 2 名 (里山センター) 講師：阿部和信氏、藤沢直行氏 (いちほら里山クラブ)
内 容	10:00~10:30 挨拶、体操、フィールド自然観察 10:30~12:30 竹クラフト (はし、茶碗、竹皿)、ジビエ料理、炊込みご飯づくり 12:30~13:20 昼食 13:30~14:30 正月飾り作り
報 告	<p>市原市古敷谷フィールドは快晴に恵まれました。霜こそ降りていませんでしたが、ピリピリする空気の冷たさを感じられました。日が高くなるにつれて、気温も上昇し、活動を始めると汗ばむ陽気でした。</p> <p>最初にいちほら里山クラブ小川さんから諸注意を受けて、ラジオ体操で体をほぐしました。午前中の活動は谷津田の自然観察、木馬 (きんま) を使った間伐材運搬のデモンストレーション、昼食時に使う食器類のクラフト製作と食事作りを行いました。</p> <p>古敷谷フィールドは市原市内に 5 つあるフィールドのうちの一つで、棚田として利用されていた休耕田が整備の対象です。谷あいを開けた谷津田に棚田の名残が見られ、イノシシが掘り返した跡が随所に見られました。稲作で活用されていたため池が残され、多様な生き物が生息する貴重な里山です。開花植物ではリュウノウギク、ノコンギクがあり、菌類ではツチアケビの実が見られました。里山整備で出る間伐材を集積所に運搬する木馬 (きんま) を利用しているようで、間伐材運搬のデモンストレーションを見せてくれました。</p> <p>食事・食器づくりは班ごとに分かれ、いちほら里山クラブの面々がインストラクターとしてついていただきました。食事作りは竹飯盒に洗いゴメとギンナン、ムカゴを入れて炭火にかけ、シシ肉はフライパンを使って、スペアリブは同じく炭火を熱源として調理しました。お皿、茶碗は切り出した竹材からわずかな時間で 48 人分製作しました。</p> <p>食卓に並んだのは大きなおにぎり、ギンナン+ムカゴご飯、お漬物数種類、ポタン鍋、シシ肉ソテー、スペアリブとジビエ料理も楽しみました。屋外で食べる食事は格別の味わいで初めて食べたポタン鍋、シシ肉のスペアリブ、クロモジ茶は強く印象に残るものとなりました。</p> <p>午後は正月飾りを製作しました。土台になるモウソウチクと細いタケを組み合わせで作りますが、バランスよく整えるのがコツのようでした。手際よく整え、ワラ縄、松を飾れば出来上がり。最後に製作物を持って記念撮影に臨みました。</p> <p>素敵な正月飾りの製作、お土産に焼き芋、竹炭をもらって大喜び、参加者に微笑みがこぼれました。</p> <p>楽しい時間もあっという間に過ぎお別れの挨拶をして古敷谷フィールドをあとにしました。</p>

添付資料（写真）



いちほら里山クラブ小川さん



クラフト講師の皆さん



ラジオ体操で身体をほぐします



木馬のデモンストレーション



はし製作中



茶碗製作中



食事の美味しさも格別



正月飾りの説明



正月飾り完成



正月飾りを手に集合写真